

国立感染症研究所村山庁舎BSL4実験室内で実施される
業務計画について

このことについて、平成29年7月20日（木）に開催された、第13回国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会において、別紙のとおり報告がありましたので、お知らせします。

BSL4 実験室内で実施される業務計画

平成 29 年 7 月 20 日

1. 業務課題名
ニパウイルス感染症の診断システム(抗体検出法)の開発と評価
2. 業務実施責任者
国立感染症研究所ウイルス第一部長 西條政幸
3. 業務実施背景
アジア(マレーシアやバングラデシュ、インド等)では致死率の高いニパウイルス感染症(脳炎)が流行しており、近年フィリピンでも流行が確認されました。日本への輸入感染症に備えて検査法を整備しておく必要があります。
4. 業務実施目的
感染性のあるニパウイルスを用いて、より精度の高い抗体検出法を開発・整備するためです。
5. 高度封じ込め施設において当該業務を行うことの必要性
ニパウイルスは BSL3 病原体ですが、本業務では動物への接種も行なうことから BSL4 で行なうこととします。
6. 実施期間
平成 29 年 7 月中旬から平成 31 年 3 月末を予定しています。
7. その他
本業務においては、ハムスターが使用される予定です。また、本業務は BSL4 実験室安全操作指針に従い、安全性に配慮して実施されます。